

関係団体ヒアリング結果

令和8年7月16日
大津市多文化共生・国際室

ヒアリングの概要

目的	市内で活動する団体の取組や課題、行政の取組に関するニーズを把握する			
実施期間	2026年5月16日～7月11日			
対象団体	市内の日本語教室及び多文化共生や国際交流に係る活動をしている10の団体・グループ			
	多文化共生 ・ 国際交流	・ 瀬田東国際交流クラブ ・ ままもののわ ・ 日和寺子屋大津 ・ 在日本大韓民国民団 滋賀県地方本部 ・ 近江渡来人倶楽部 ・ 特定非営利活動法人 大津日独協会		
	日本語教室	・ (公財) 大津市国際親善協会日本語教室 (浜大津教室・堅田教室) ・ 淡海日本語ふれあいクラブ ・ 多文化共生支援クラブ ・ にほんごの会		
主なヒアリング項目	・ 団体概要 ・ 行政への要望	・ 活動内容 ・ 連携先の有無	・ 活動目的 など	・ 現状と課題

団体・グループの概要

◆多文化共生・国際交流

団体	瀬田東 国際交流クラブ	日和寺子屋 大津	ままとものわ	在日本大韓民国 民団 滋賀県 地方本部	近江渡来人 倶楽部	特定非営利 活動法人 大津日独協会
活動目的	地域に住む日本人・外国籍の親や子どもたちが、多様なイベントを企画し、実施することを通じて交流を楽しむこと。	・外国にルーツを持つ児童生徒への学習支援 ・子ども・保護者からの相談のサポート	国籍や言語等に関係なく、滋賀県に住む家族が集まる場所を作ること。	・在日韓国人の生活支援や権益擁護 ・日韓交流の推進	・「自由で公正な開かれた社会」の実現をめざすこと。 ・「包容力と多様性を持った多文化共生社会」の実現をめざすこと。	市民レベルでの草の根の文化交流事業を通じて両国の国際理解を深め、両国民の友好親善に寄与すること。
主な活動	・地域に住む日本人や外国籍の人が、学び合いながら楽しく交流している。 ・イベントの企画や周知、当日の運営は主にクラブに所属する子ども（小・中学生）が行う。	・近隣の大学生や大学院生が中心となり、外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援を行っている。 ・学校や行政などに提出する書類作成のサポートや、生活に関する相談のサポートを行っている。	外国にルーツのある家族と日本人家族をつなぐ交流イベントを1、2か月に1回の頻度で開催している。 ・ゲームや工作などで子どもたちと一緒に遊んだり、おしゃべりをしながら楽しく国際交流を行っている。	・各種講座・イベントの開催 ・韓国・亀尾市等海外からの来訪者の受入やイベント等への通訳派遣 ・在日韓国人の生活支援 ・権利獲得に向けた運動など	・渡来人歴史館の運営 ・多文化共生支援センターSHIPSの運営 ・その他（記念イベント等の開催）	・ヴェルツブルク等ドイツ関係者の来訪を受入れ、会員との交流機会を創出している。 ・ドイツの食や芸術に関するイベントや講演会の開催を通じてヴェルツブルクに関する市民の認知度を高めている。
活動場所	瀬田東学区やその周辺エリア	瀬田公民館	主に大津市内	大津市内	渡来人歴史館・多文化共生支援センターSHIPS	ヴェルツブルクハウス（大津市由美浜）
財源	参加費、各種助成金	各種助成金（必要に応じて申請している。）	各種助成金	寄付、賛助金	広告料など	会費

団体・グループの概要

◆日本語教室

団体	大津市 国際親善協会 浜大津教室	大津市 国際親善協会 堅田教室	多文化共生支援ク ラブ	にほんごの会	淡海日本語 ふれあいクラブ
活動場所	大津市 国際交流サロン	堅田コミュニティー センター	瀬田公民館	大津公民館	瀬田北公民館
活動日	毎週金曜日 13:30～14:30 19:00～20:00	毎週木曜日 10:00～11:45	毎週金曜日 19:00～20:30	毎週木曜日 10:00～12:00	毎週土曜日 19:30～21:10
ボランティア数	昼クラス12名 夜クラス11名	8名	登録者：12名 実働：11名	15名	7名
学習者について	昼クラス13名 夜クラス17名 ・配偶者が日本人で、 生活する上で日本語 の学習が必要な人が 多い。 ・自営業や主婦もい る。	28名 ・会社や大学で日本 語を学んでいる人は おらず、日本語教室 しか学びの場がない。 ・日本語能力試験を 受験する学習者が増 えてきた。	24名 ・立命館大学の留学 生とその家族が多い。 ・日常会話を習得し たい人が多い。 ・ほとんどの人が簡 単な日本語を理解で き、片言の日本語を 話すことができる。	27名 ・生活場面と密着し たコミュニケーション を可能とする能力 の獲得を目指してい る。	21名 ・入門からハイレベ ルまで幅広いレベル の学習者がいる。 ・就労者が多く、主 婦や大学の先生もい る。

①担い手不足

- ・ 活動の担い手が不足・高齢化している。
- ・ 活動を引き継ぐ後継者を探すのが難しい。
- ・ 若い世代を巻き込みたいが、子育てや仕事、介護で忙しい。
- ・ 広報でボランティア募集をしてもなかなか応募が来ない。

②財源の確保

- ・ 運営資金の調達が難しい。
- ・ 助成金を受ける際に必要な事務手続きや報告会の負担が大きい。時間と労力が割かれるのは致し方ないが、本来は活動内容の充実に労力を注ぎたい。
- ・ 大きい額の助成金が多く、交付を受けて使い切ることが大変。

③活動の周知

- ・ 集客のために、活動の対象者にどのように情報を届けたらよいか、効果的な情報発信の方法がわからない。

④その他

- ・ 活動のキーパーソンがいなくなった場合、活動が途絶えてしまう。

行政に取り組んでほしいこと

①情報交換・つながる場の提供

- ・ 市内で活動している団体がつながり、情報交換できる場がほしい。
- ・ 市内の動向や課題を共有できる場やシステムがあればよい。
- ・ 行政に相談を繋げられるパイプがあると安心する。

②助成金制度

- ・ 少額で申請できる助成金制度があるとよい。
- ・ 助成金の手続きを簡略化してほしい。

③周知協力

- ・ 活動の周知に協力してほしい。
- ・ 学校や行政窓口を通じて活動の紹介チラシを配布してほしい。

④その他

- ・ 活動に利用できる場所を増やしてほしい。
- ・ 公的な組織が関与しているかで信頼度が違うため、ボランティア募集にあたり市の後ろ盾がほしい。
- ・ 外国籍の人に対して何が必要か要望を聞き、それに応えてほしい。

◆地域の日本語教室の役割をどう考えるか

- ・ 企業や大学などに属さない学習希望者を受け入れ、日本語学習を行う場
- ・ 地域生活に根差した日本語を学習できる場所
- ・ ボランティアと学習者がコミュニケーションを取ることができる場
- ・ 日本語でのコミュニケーションがとれるようにサポートする場所
- ・ 職場以外のコミュニティを構築する場所

◆地域の日本語教室に学びに来る人の動機は何だと思うか

- ・ 日常会話を習得したい。
- ・ 日本語能力試験に向けた勉強をしたい。
- ・ 地域の病院や、学校などに関する情報を得たい。
- ・ 子どもの学校で配布される書類の内容を理解できるようになりたい。
- ・ 職場以外のつながりがほしい。
- ・ 日本人と交流しながら学びたい。
- ・ 無料・安価な費用で日本語を学びたい。

日本語教室について

◆日本語教室に通うことを阻害する要因

- ・子育てや仕事が忙しい。
- ・子どもを日本語教室に連れていけない。
- ・家から教室までの距離が遠い。
- ・学習内容が難しく、ついていけない。
- ・帰国する・転職で市外に転勤する。

◆日本語教室の需要

- ・日中と夜間で偏りなく授業があると、受講しやすい。
- ・大学があり、外国人が多い瀬田地域における日本語教室の需要が高い。
- ・堅田エリアで教室の曜日や時間帯をもう少し増やせたらよい。
- ・子どもがいても親が学習できる環境があるとよい。

◆行政に取り組んでほしいと思うこと

- ・日本語指導者の養成に力を入れてほしい。
- ・ボランティアのスキルアップのための講座を開催してほしい。
- ・日本語の会話を気軽にできる場所を増やしてほしい。

◆日本語教室特有の課題

- 外国人の日本語レベルがバラバラで、必要とする学習のレベルが幅広く、日本語教室の体制づくりが難しい。
➡外国人の多様なニーズに応じられる教室と応じられない教室がある。
- 日本語を教えることに対するハードルの高さを感じる人が多い。
➡ボランティアを始めたい人の不安をいかに取り除くかが重要。
- 日本語学習における企業・大学・地域の日本語教室の役割分担ができていない。
➡現状は地域の日本語教室が就労者も留学生も広く受け入れている。

今後検討が必要な取組

共通事項

- 活動の担い手育成
- 若い世代への関心の喚起
- 情報交換・つながる場の創出
- 活動に関する効果的な情報発信
- 利用しやすい助成金制度

日本語教室

- 日本語指導者の養成・スキルアップ
- 地域における日本語教室の更なる充実
- 企業・大学・地域の日本語教室・日本語学校の役割分担の明確化と認識の共有

関係団体ヒアリング

活動種別：多文化共生

団体概要	団体名	日和寺子屋大津
	設立年	2006年
	団体の設立経緯	大津市国際親善協会のボランティアグループの一つとして、外国にルーツをもつ児童生徒の学習支援を行うために立ち上げられた。2006年に独立し、現在に至る。
	活動目的	・外国にルーツをもつ児童生徒への学習支援 ・子ども・保護者からの相談のサポート
	活動拠点	瀬田公民館
	代表者	－
	対象者	外国にルーツを持つ子どもとその保護者
	ボランティア数	8名
	活動頻度	毎週土曜日 午前
活動内容	主な活動	・近隣の大学生や大学院生が中心となり、外国にルーツを持つ子どもたちの学習支援を行っている。 ・学校や行政などに提出する書類作成のサポートや、生活に関する相談など、学習以外の面でもサポートをしている。 ・年に数回、おでかけなどのイベントを行っている。
活動理念	目指していること・活動する上で大切にしていること	勉強することだけではなく、子どもや保護者が安心して過ごせる居場所にあることを目指している。
現状		・近隣の小学生から高校生までの生徒とその保護者が、宿題や受験勉強のために訪れている。 ・ボランティアとお話するために来る子もいる。 ・日和に来て奨学金、高校や専門学校などの情報を得たい親も多い。 ・大学のボランティアセンターや、ボランティアを紹介するイベントに参加し、活動について周知をしている。 ・地域の料理屋や、民生委員を通じて小学校や中学校に活動の周知チラシを持って行ったことがある。 ・通っている子どもの口コミで知ってもらうこともある。
課題	運営面・活動面	・子どもたちの家庭の問題には踏む込みにくい。 ・子どもたちの学年が上がり、就職活動や専門学校への進学など、自分たちの経験がない分野のことをどのようにサポートしたら良いか分からない。
	人材	・ボランティアが不足している。より多くの外国ルーツの家族に日和のことを知ってもらいたいが、その一方で来る人が増えると受け入れが難しい。 ・学生ボランティアは大学3、4年生になると就職活動等で忙しくなり活動に來れなくなる。下級生に引き継いでいきたいが、後継者を探すのが難しい。
	財源	補助金は書類の手間が多い。
行政への要望		・活動の周知に協力してほしい。学校に直接周知できれば、より知ってもらえるのではないかと。 ・就職や専門学校など、自分に経験のないことを教えてくれる団体があれば子どもたちに話を聞かせてほしい。
連携状況		・日和のOB、OGから支援いただく方法を検討している。 ・近隣の大学の学生とつながりたい。
今後の展望	取り組みたいこと 将来像	・ボランティアが増えたら、定期的にイベントを開催したい。 ・現状維持を目指したい。支える人が変わっていく中でも、活動は続けていきたい。 ・通っている子どもたちが、毎週ではなくても、継続的に来てくれたら嬉しい。

関係団体ヒアリング

活動種別：多文化共生・国際交流

団体概要	団体名	ままとものわ
	設立年	2024年5月
	団体の設立経緯	外国籍の友人が、妊娠、出産を機に地域とのつながりが増えたことで日本での居場所ができたため、外国籍の人との出会いの場を作ることが大切だと気付いたこと、また天津市多文化共生ボランティアの1期生として活動する中で、母子に特化した活動の需要に気付いたため、団体を立ち上げた。
	活動目的	国籍や言語等に関係なく、滋賀県に住む家族が集まる場所を作ること。
	活動拠点	主に大津市
	財源	(初年度) まちづくりスポット大津 スタートアップ助成金 (2年目) 淡海ネットワークセンター助成金+参加費(大人一人500円) (現在) 参加費(大人一人800円)+助成金申請中
	代表者	三宅 茉依
	スタッフ数	3名
	活動頻度	1～2か月に1回
活動内容	主な活動	・外国にルーツのある家族と日本人家族をつなぐ交流イベント「Biwa Mama Cafe」を1～2か月に一回の頻度で開催している。 ・ゲームや工作などで子どもたちと一緒に遊んだり、おしゃべりをしながらたのしく国際交流をしている。 ・外国語ができない人が来た場合は、スタッフが英語で会話をサポートしている。
活動理念	目指していること・活動する上で大切にしていること	・一方的な支援という形ではなく、地域の色々な人と出会い、ともに時間を過ごして楽しんだり、ほっとしたりできる場を目指している。 ・外国にルーツのある家族と日本人家族が出会うきっかけをつくる。 ・支援ではなく、お互いのバックグラウンドを学び合えるコミュニティをつくる。 ・子どもにとっても多文化交流や学びの機会にしたい。
現状	参加者の状況	・中国、フランス、メキシコ、フィリピン、オーストラリアなど様々な国や日本人の親子が参加している。 ・立命館の留学生がサポートとして参加することもある。
課題	運営面・活動面	・集客に課題がある。地域に住んでいる外国人へどのように情報を届けるか、効果的な発信方法がわからない。 ・今は自らが児童館や公園に行くので、子育て中の人に会いやすいが、自分の子どもが大きくなり、子育て中の人との接点が少なくなると、どのように情報を届けられるかが心配である。 ・助成金をもらうと書類の作成や報告などに大変な時間と労力がかかる。
	財源	資金面に課題があり、参加費を値上げした。低価格にしたいが、助成金に頼ることにもなりバランスが難しい。

行政への要望		・周知に協力してほしい。新たに大津に来た外国人に、窓口などでチラシを渡してほしい。 ・学校にチラシを配布することのハードルが高い。市民団体と学校・行政とつながる場がほしい。 ・子育てや産後うつの話など、専門的な分野になると対応できないため、子育てや女性の関係で行政につなげられるパイプがあると安心する。 ・大津市における外国人を取り巻く課題や動向を情報共有したり、交流できる機会があると良い。 ・外国ルーツの子どもが抱えている課題について学校の先生から話を聞きたい。 ・少額で気軽に申請できる助成金があると良い。 ・コミュニティーセンターのように無料で施設を利用できる場所があると助かる。 ・公の会議室を利用しているが、土日は予約が埋まりやすく希望日に予約が取れないことが多いため、市民活動で使える場所を増やす等の対策があればありがたい。 ・会議室の予約をネットや電話でできるようにしてほしい。
連携状況	現在の連携先	・湖西ゆびまるこ ・Mam & Dad Japan ・（チラシの配布先）子育て支援センターゆめっこ、児童館、すこやか相談所、草津の子育て支援センター、保育園、県内外の国際交流協会 ・SNSでのフォロー申請やメッセージから人とのつながりができる。
今後の展望		・大学と連携して学生のボランティア活動に協力したい。 ・他団体と連携し、情報や課題の共有、イベント内容の充実を目指したい。 ・参加者のルーツや文化を活かし、共有する機会を増やしたい。

関係団体ヒアリング

活動種別：多文化共生

団体概要	団体名	近江渡来人倶楽部
	設立年	2000年4月
	団体の設立経緯	・日本人との結婚など、韓国・朝鮮籍住民が減っていく中で、これからどのように日本社会と関わっていくのかという問題意識から始まった。 ・一方で、国際化が進む中、日本人の人権意識や国際感覚、歴史認識がこのままの姿でよいのか。日本が人口減少に直面していく中で、どのような国・社会を作っていくのか決断しなければならないという問題意識もあった。 ・在日コリアンだけでなく、幅広い国籍の人が参画し、「内なる国際化」を図り、包容力と多様性を尊重する社会をつくる活動をするために設立した。
	活動目的	・在日コリアンに対する根拠のない民族的差別や偏見を解消し、ルーツを隠すことなく暮らすことができる「自由で公正な開かれた社会」の実現を目指すこと。 ・在日コリアンを含む様々な国籍の人が、地域社会の一員として心豊かに暮らすことができる「包容力と多様性を持った多文化共生社会」の実現を目指すこと。
	活動拠点	渡来人歴史館・多文化共生支援センターSHIPS
	財源	広告料など
	代表者	代表 河 炳俊
	運営体制	理事：10名 事務局：2名 会員：約30名（会員は現在募集していない）
	活動頻度	「主な活動欄」のとおり
活動内容	主な活動	●渡来人歴史館の運営 ・ 毎週金・土・日に開館。団体客は事前予約の上、平日でも受け入れている（2週間に1回ほど団体の訪問有）。 ・ 滋賀における渡来人の歴史などをテーマとする「歴史講座」を年に数回開催している。 ・ 県内大学や高校の学生や様々な団体が人権や歴史学習のために訪問する。県外からの修学旅行や旅行ツアーの行程に組み込まれることもある。 ●多文化共生支援センターSHIPSの運営 ・ 日本語教室（毎週水曜・金曜の10:30～12:00）や多文化子ども食堂（毎月第4土曜日11:00～14:00）、生活相談を開催している。 ●その他 ・ 近江渡来人倶楽部設立25周年を記念し、2025年3月に創作オペラの記念公演を開催した。
活動理念	目指していること・活動する上で大切にしていること	・東アジア関係史、とりわけ日本と朝鮮半島との歴史を正確に理解し、客観的な歴史認識を普及すること。 ・ニューカマーの人々がオールドカマーと同じ苦勞をしないように、包容力と多様性のある社会をつくること。 ・様々な角度から日本を見つめ、「日本社会の目覚まし時計」の役割を果たすこと。
現状		・ 会員の高齢化に伴い活動を縮小している。 ・ 現在は会員の募集を停止し、渡来人歴史館とSHIPSの運営に注力している。
課題	運営面	活動をどのように後世にバトンタッチして受け継いでいくか。渡来人歴史館とSHIPS、二つの拠点の運営を通じて、思いを後世に届け続けたい。
行政への要望		・ 市内で活動している様々な団体がつながり、情報交換できる場がほしい。 ・ 市内にどのような動きがあり、大津市はどのようなことを考えているのか、共有できる場やシステムがあればよい。

連携状況	現在の連携先	・滋賀県国際協会：河 炳俊代表が滋賀県国際協会の評議員となっている。 ・サンタナ学園（愛荘町）：運営を支援するため、同学園を支援するNPO法人コレジオ・サンタナの賛助会員となっている。 ・その他：福山市人権平和資料館の関係者が渡来人歴史館に訪問されたことをきっかけに、渡来人歴史館の展示パネルを人権平和資料館に貸出し、「渡来人歴史館展」が開催された。
今後の活動方針	取り組みたいことや将来像	・独自の活動を行いながら、同じ考えをもつグループの支援を行っていく。 ・渡来人歴史館を通じて、軌を一にする人たちの講演や展示の場を提供していく。

関係団体ヒアリング

活動種別：国際交流

団体概要	団体名	特定非営利活動法人 大津日独協会
	設立年	2007年6月12日
	団体の設立経緯	ヴェルツブルクハウスを拠点に、大津とヴェルツブルク間の市民交流を行うために設立した。
	活動目的	市民レベルでの草の根の文化交流事業を通じて両国の国際理解を深め、両国民の友好親善に寄与すること。
	活動拠点	ヴェルツブルクハウス（大津市由美浜）
	財源	会費（法人 2 万円、個人 5 千円）
	代表者	理事長 清水 耕二
	会員数	個人会員29名 法人会員5社
	活動頻度	年4回ほどイベントを開催するほか、随時ドイツ関係の来訪者を受入
活動内容	主な活動	・ヴェルツブルクをはじめとするドイツ関係者の来訪を受入れ、会員との交流機会を創出している。 ・ドイツの食や芸術などに関するイベントや講演会の開催を通じてヴェルツブルクに関する市民の認知度を高めている。
活動理念	目指していること・活動する上で大切にしていること	・ヴェルツブルクをはじめとするドイツの関係者に、大津を訪れて良かったと思っていただけるようおもてなしをすること。 ・両市民間のこれまでの友情を大切につないでいながら、交流を通じて両市間の友好親善を深めること。
現状		・ヴェルツブルクなどドイツ関係者の来訪を受入れ、会員との交流機会を創出している。 ・ドイツの食や芸術などに関するイベントや講演会を通じて市民のヴェルツブルクの認知度を高めている。
課題	人材	・若い人を引き込み、次の世代に活動をつないでいくこと。 ・ヴェルツブルクにキーパーソンがいるため、これまで交流活動が続けることができているが、この人と人とのつながりが消えてしまったら、大事な関係も切れてしまうのではないかと危惧している。
行政への要望	必要な支援	ヴェルツブルクハウスの維持管理について計画的に実施してほしい。
連携状況	現在の連携先	・大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館 ・京都外国語大学（ドイツ語学科） ・シーボルト協会（ヴェルツブルク）
今後の展望	取り組みたいこと・活動方針	2027年は協会設立20周年にあたるため、ヴェルツブルクを訪問し、現地の市民との直接交流を実現したい。

団体概要	団体名	(公財) 大津市国際親善協会日本語教室 堅田教室
	設立年	2005年10月
	活動目的	生活に必要な日本語を地域の外国人市民に教えること。
	活動拠点	堅田コミュニティーセンター
	対象者	18歳以上の外国人
	ボランティア数	8名
	活動頻度	毎週木曜日 10:00～11:45
団体の設立経緯		1995年の「市内在住外国人のための日本語教室」開講以降、2004年の浜大津教室及び瀬田教室に引き続き、堅田教室を開講した。
活動内容	主な活動	・日常生活で使用する日本語を地域の外国人に教えること。 ・コミュニケーションや交流を通じて地域の外国人の生活をサポートすること。
活動理念	目指していること・活動する上で大切にしていること	交流や生活のサポート面も大切にしている。
現状	学習者について	・学習者は28名いる（入門4名、初級13名、中級11名。ほとんど来ない人も含む）。 ・会社や大学で日本語を学んでいる人はおらず、日本語教室しか学びの場がない。 ・以前は日本語能力試験を受ける人は少なかったが、クラスの人数が増えて互いに良い刺激になっているのか、直近で5名の学習者が試験を受験した。
	学習者のニーズ	・日本人と交流をしながら学びたい。 ・費用が高い日本語学校に通えないため、地域の日本語教室で日本語を学びたい。 ・生活パートナーが日本人で、家族内での交流に活かしたい。 ・日本社会への溶け込みを目指している。 ・仕事を円滑に行うために基本的な日本語を正しく学びたい。 ・子どもの学校で配られるプリントを読めるようになりたい。
	学習上のハードル	・仕事が忙しくなると通えなくなる。以前、雇用している外国人を教室に通わせていた企業があったが、途中から来なくなってしまった。 ・妊娠、出産を機に通うのを辞めてしまう人がいる。
	その他	参考書や教え方の手引きなどで各自スキルアップをしている。
課題	運営面・活動面	・堅田エリアで教室の曜日や時間帯をもう少し増やせたらよい。昼間の教室はニーズがあると思う。 ・気軽におしゃべりをするクラスがあっても良いと思う。 ・遠足など屋外の活動も取り入れていきたい。
	人材	・ボランティアの数を増やしたい。 ・働く世代はボランティアとして活動することが難しい。子育て、介護も活動を始めるハードルとなる。 ・日本語の文法等を教えることに対して難しいと感じる人が多い。ボランティアをする入り口のハードルを下げる必要がある。
	その他	特定技能外国人については、企業が日本語学習をさせる義務があるが、技能や技術・人文知識・国際業務などの在留資格はその義務がなく、在留資格によって企業がやるべきことが違う。
行政への要望		—
連携状況		・連携したり交流している団体はない。 ・他団体との交流について興味はあるが、定期的に参加する必要があると負担が大きい。
今後の展望	取り組みたいこと 将来像	・学習者に楽しんでもらえる教室にすること。 ・外に出て大津の文化や歴史を学び、日本や大津を好きになってもらいたい。

団体概要	団体名	多文化共生支援クラブ
	設立年	2021年
	団体の設立経緯	(公財) 大津市国際親善協会の日本語教室として活動していたが、2021年に独立し、現在に至る。
	活動目的	日本語を母語としない人たちが、日本で生活する上で必要な簡単な日本語が話せることを目指し、日本語学習を支援すること。
	活動拠点	瀬田公民館
	財源	学習者からの参加費+ボランティアによる費用負担
	代表者	山崎 光男
	ボランティア数	登録者：13名 実働：11名（2名で1クラス担当のため実働数は毎週6名）
	活動日	毎週金曜日 19:00～20:30
活動内容	主な活動	・留学生、就労者、主婦など、広く学習者を受け入れ、日本語の習得を支援している。 ・様々な生活相談にのっている。病院や学校など、生活に必要な情報提供や、時には病院の付き添い、各種手続きのサポートをすることもある。 ・学習だけではなく交流の場にもなっている。
活動理念	目指していること・活動する上で大切にしていること	・日本で生活する上で必要な簡単な日本語が話せるようになること。 ・学習者の生活に関わる様々な相談に乗り、サポートすること。
現状		●学習者について ・4月から学習者が8名増え、登録者が24名程となった。実際に来ているのは18名程（キルギス・中国・ベトナム・フィリピン・バングラデシュなど）。 ・立命館大学の留学生と、その家族が多い。 ・就労者の方が熱心に学ぶ傾向がある。 ・職場以外の繋がりを持ちたいという気持ちが学習者にある。 ・生活上の会話ができるようになりたい人が多く、資格や試験のための学習がしたい人は少ない。 ・ほとんどの人が簡単な日本語を理解でき、片言の日本語を話すことができる。 ・仕事に注力するようになり、教室に通わなくなる学習者がいる。 ●教室について ・3～8名程度のクラスで、グループレッスンを行っている。 ・日本語能力試験を受験したい生徒がいるが、試験対策の授業は行っておらず、テキストの紹介のみ行っている。 ・学費が高額な日本語学校に行けない人の受け皿になっている。 ・ボランティアが足りないため、全く日本語ができない学習者の受入ができていない。少し日本語が話せる人は、調整し受け入れている。 ●その他 ・滋賀医科大学、立命館大学があるため、瀬田地域における日本語教室の需要が高い。 ・社会福祉協会のボランティア講座の紹介コーナーに参加し、クラブの活動を宣伝している。

課題	運営面・活動面	ボランティアが足りず、新たな生徒の受入れが難しい。
	人材	・広報おおつにボランティア募集の記事を掲載してもなかなか応募が来ない。 ・ボランティアが高齢化している。
	その他	・日本語を教えることに対してハードルが高いイメージを持つ人が多い。ボランティアをしようとしている人の不安をいかに取り除くかがボランティアを増やす鍵となる。 ・本来は、企業や大学が責任を持って日本語学習の機会を提供するべきであり、それらに属さない人を受け入れることが、地域の日本語教室の意義・役割であるとする。しかし現状は役割分担ができていないため、就労者も学生も広く受け入れている。
行政への要望		・新規ボランティアの養成に力をいれてほしい。 ・文法の教え方など、ボランティアのスキルアップのための講座を定期的・継続的に開催してほしい。 ・ボランティア募集の際に市の後ろ盾がほしい。公的な組織が関与しているか否かで信頼度が違う。 ・単に悩みや課題を言い合う団体交流会は意味がない。交流会をするのであれば有意義な情報が得られるものにしてほしい。
連携状況	現在の連携先	大津市社会福祉協議会、瀬田すこやか相談所、日和寺子屋大津
	今後連携したい分野	・プロの日本語教師に教え方や教材の情報を聞きたい。 ・日本語学校に行き、教え方を直接見聞きたい（模擬授業）。
今後の展望	取り組みたいこと・将来像	・余裕があればゴミの出し方や生活する上で気をつけたほうがよいことについて教える機会をつくりたい。 ・学習者並びにその友人を対象に防災や自転車、自動車のルールに関するセミナーを開催したい。 ・昼間の日本語教室を開校したい（主として主婦が対象）。

関係団体ヒアリング

活動種別：日本語教室

団体概要	団体名	にほんごの会
	設立年	2010年
	設立経緯	当時の大津市国際親善協会職員から主婦を対象とする昼の日本語教室の開設を依頼され、協会事業として学習者1人で活動を始めた。 2010年に支援者および学習者の賛同を得て大津市国際親善協会から独立し、活動を開始した。
	活動目的	日本語習得支援（文法を教えるのではなく、コミュニケーションによる支援） 生活支援（相談対応、相談窓口の紹介など）
	活動拠点	大津公民館
	代表者	清水 豊美
	ボランティア数	15人（申請ベース）
	活動日	毎週木曜日 10時～12時
活動内容	主な活動	支援者と学習者とのコミュニケーションを通じて日本語習得支援を行う。
	特徴的な取組	・子どもが親と話をすることで言葉を習得するのと同じように、コミュニケーションを取ることで日本語習得支援を行う。 ・文法・文型の習得支援は行わない。
	強み・特色	学習者が子どもを連れてきても良い。
活動理念	目指していること	学習者が生活場面と密着したコミュニケーション活動を可能とする能力を獲得すること。
	活動する上で大切にしていること	学習者と支援者のコミュニケーション
現状	学習者について	7か国 計27名（中国、ブラジル、イギリス、メキシコ、フランス、インドネシア、ベトナム）
	学習者のニーズ	・日本語を使って、健康かつ安全に生活が送るようにすることができること。 ・日本語を使って、自立した生活送ることができるようにすること。 ・日本語を使って、相互理解を図り、社会の一員として生活を送ることができるようにすること。 ・日本語を使って、文化的な生活が送ることができるようにすること。
	学習上のハードル	なし（学習者のニーズに応えているため）
	その他	大津公民館利用者団体協議会に参加し、公民館施設を減免で使用している。 その他の費用は、各個人で負担している。
課題		-
行政への要望		雑談をするだけでも良い、ということに気づいていない人が多い。 日本語の会話を気軽にできる場所が増えると良いと思う。